

東通原子力発電所温排水影響調査 海洋環境調査(要約)

扇田いずみ・兜森良則

目 的

平成 17 年度から営業運転を開始した東北電力東通原子力発電所 1 号機から排出される温排水が、周囲に与える影響を把握するための調査を実施する。

材料と方法

1. 調査海域 東通村白糠沖(図 1)
平成 27 年度からは調査地点を St. 2、St. 5~8 の 5 地点のみに変更
2. 調査時期 第 1 四半期:平成 27 年 6 月 10 日
第 2 四半期:平成 27 年 9 月 28 日
第 3 四半期:平成 27 年 11 月 17 日
第 4 四半期:平成 28 年 3 月 12 日

3. 調査項目

平成 27 年度から調査項目を水温・塩分のみに変更。5 地点で、CTD (鶴見精機) を用いて水温・塩分を測定した。表層はバケツで採水した表面海水の水温を棒状水銀温度計で測定し、試水は水産総合研究所に持ち帰りサリノメーター(渡辺計器)を用いて塩分を測定した。

4. その他

原子力発電所が運転停止中のため、各時期とも温排水は排出されていない状況であった。

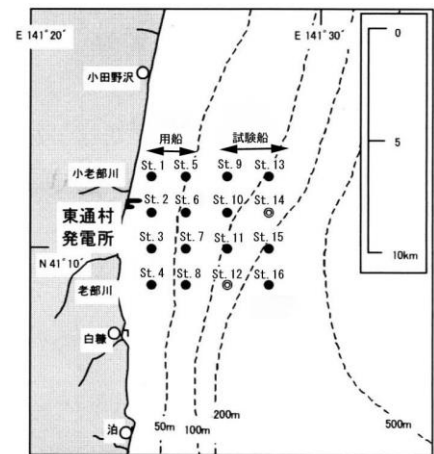


図 1. 調査地点

結 果

1. 第 1 四半期

水温:全体は 11.9℃~12.8℃の範囲に、表層は 12.2℃~12.8℃の範囲にあった。

塩分:全体は 33.7~33.9 の範囲に、表層は 33.7~33.8 の範囲にあった。

2. 第 2 四半期

水温:全体は 19.4℃~20.1℃の範囲に、表層は 19.4℃~19.9℃の範囲にあった。

塩分:全体は 33.7~33.8 の範囲に、表層は 33.7~33.8 の範囲にあった。

3. 第 3 四半期

水温:全体は 14.6℃~15.6℃の範囲に、表層は 14.6℃~14.9℃の範囲にあった。

塩分:全体、表層ともに 33.6~33.8 の範囲にあった。

4. 第 4 四半期

水温:全体は 7.0~9.3℃の範囲に、表層は 7.0℃~8.6℃の範囲にあった。

塩分:全体、表層ともに 33.8~33.9 の範囲にあった。

発表誌: 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成 27 年度報), 青森県, 平成 28 年 8 月